

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成30年7月19日(木)15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 吉田 憲司 (館長)—

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 園田 直子 (議長)—

3. 地震被害からの復旧進捗状況について

平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震の影響で、展示場の施設の損傷をはじめ、研究室、図書室における蔵書の落下などの被害が発生したため、本館は当面の間休館しております。現在、早期の展示ならびに図書室の再開を目指して、館員一丸となり、作業を続けております。

今回は、地震被害からの復旧の進捗状況についてお知らせいたします。

— 吉田 憲司 (館長)—

4. みんなの Sama-Sama(サマサマ)塾 塾生募集について

知的障がい者の方のための学習ワークショップを開催します。グローバルが進む現代社会において、知的障がい者の方々も世界の文化や民族、そして多様な生き方や考え方を学ぶことは必要不可欠であると考えています。世界の文化を知ることによって、より楽しく豊かな生活を送っていただきたいと思っています。

対象：中学生以上の知的障がいのある方
(療育手帳を持っている方)

活動場所：国立民族学博物館

※参加無料

※参加希望の方は、まずは「みんなの Sama-Sama 塾」へ
ご登録ください。

※ワークショップに参加する塾生には、必ず保護者もしくは
介護者の方が付き添ってください。

※受付期間 2018年8月31日(金)まで

※詳しくはみんなのホームページをご覧ください。

<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/2018samasama>



— 信田 敏宏 (グローバル現象研究部 教授)—

5. 学術潮流フォーラムⅡ 学術資源研究開発センター・国際シンポジウム

「ミュージアムの未来—人類学的パースペクティブ」

民族学博物館は、19世紀に各国で設立されるようになったことからわかるように、「博覧会の世紀」の考え方を強く受け継いでいます。当時、人類社会は未開段階から産業段階へ進歩し、それぞれの民族文化はこの階段の特定の間段階に位置するものだと考えられていました。この進化主義の考えかたは、20世紀になると理論的に誤ったものとして棄却されますが、ミュージアムは、展示をとおして、見る者と見られる者のあいだに非対称的な権力関係を再生産しつづけました。しかし21世紀に入った現在、多くの民族学博物館が、展示と間接的に関わるさまざまな活動をつうじて、この権力関係を脱構築しようとしています。

このシンポジウムでは、ミュージアムのあらたな役割を構想します。

日時：9月28日(金)14:00~16:30

会場：グランフロント大阪 北館4階ナレッジシアター

定員：350名(要事前申込)

参加費：無料

言語：英語／日本語(同時通訳あり)

— 飯田 卓 (学術資源研究開発センター 教授)—

6. 研究こぼれ話

オアシスのいまむかし

—サウジアラビア、ワーディ・ファーティマからの報告

本館名誉教授である片倉素子(故人)が、サウジアラビアのオアシス、ワーディ・ファーティマの調査を開始したのは1960年代末のことでした。その当時、ワーディ・ファーティマは大きな変化を迎えはじめていた時期でした。それから50年、2018年5月にワーディ・ファーティマを舞台にした合同調査が、8名の乾燥地研究者らによっておこなわれました。

今回は50年の間に起こった変化を調査のエピソードを交えながら報告します。



ナツメヤシは、オアシスの農業・生活に欠かすことができない植物でした。しかし、今ではわずかに栽培されるにとどまっています。

— 石山 俊 (人類文明誌研究部 プロジェクト研究員)—

7. 特別展「工芸継承—東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」

日本における工芸の近代化、産業化の推進と東北地方の工芸業界の発展を推進した国立工芸指導所は、まさに日本におけるインダストリアルデザインの原点の一つです。本展では、国立工芸指導所の活動を振り返りつつ、日本の工芸品が、どのように世界に発信していくのかについて考えます。

会 期：9月13日（木）～11月27日（火）

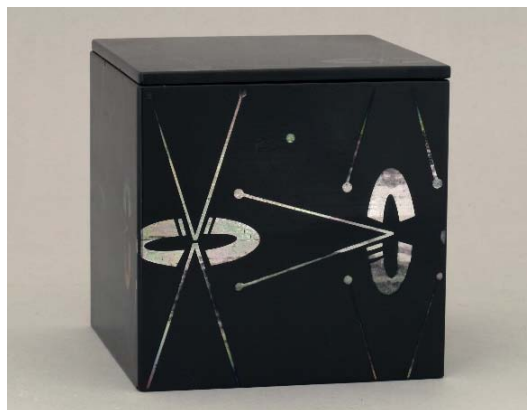
会 場：国立民族学博物館 特別展示館

観覧料：一般 830円（560円）高校・大学生 450円（250円）
中学生以下 無料

※（ ）は20名以上の団体料金

リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます。



真空装置で金属を蒸着した漆塗りの小箱
東北歴史博物館蔵

— 日高 真吾（人類基礎理論研究部 准教授）—



国立民族学博物館

懇談会についてのお問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話：06-6878-8560（直通）FAX:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp